

徳島県鳴門市におけるウキクサ科の分布

木下 覚

Satoru Kinoshita : Distribution of the Lemnaceae in Naruto City, Tokushima Prefecture

1. はじめに

徳島県のウキクサ科植物については、昭和60年(1985年)頃までは、ウキクサ *Spirodela polyrhiza* Schleid., ヒメウキクサ *S. oligorhiza* (Kurz) Hegelm. アオウキクサ *Lemna aoukikusa* Bepp et Murata, が確認されているにすぎなかった。その後筆者は鳴門市からミジンコウキクサ *Wolffia globosa* (Roxb.) Hartog et Plas, コウキクサ *Lemna minor* L., イボウキクサ *L. gibba* L. の分布を確認し、コウキクサなどは県内の広範囲に分布していることが分かった。今回県内のウキクサ科植物について再検討を行った結果、鳴門市にはウキクサ、アオウキクサ、ミジンコウキクサ、ナンゴクアオウキクサ、コウキクサ、イボウキクサが分布していることが分かった。鳴門市という地域にこれだけ多くのウキクサ科植物が分布しているのは珍しいことと思われるのでその調査結果について報告する。

2. 調査場所と調査方法

- (1) 鳴門市の全域からウキクサ科植物が分布していると思われる水田、ハス田、用水路、ため池等を調査し、確認された場所から標本を採取し、持ち帰ってから顕微鏡下で同定した。
- (2) 同定後さく葉標本にして、それに基づいて分布図を作成した。

3. 調査結果と考察

(1) 生育環境とウキクサ科植物の分布

生育環境の違いによってウキクサ科植物の種類には違いがみられる。そこで、生育環境とウキクサ科植物の分布との関係を概観すると次のようであった。

① 水田とその周辺

鳴門市の中央部は大麻山自然公園になっていて、大麻山(標高504m)とそれに連なる讃岐山脈から成

る山地である。その北部の谷筋は瀬戸内海に面して、水田が点在する。南部は旧吉野川に注ぎ込む川によって作られた扇状地で水田が広がっている。これらの水田は殆どがウキクサ、アオウキクサであった(図1, A, B)。水田脇の溝や用水路、ため池などで、冬期も水が濁れない所や、小川の縁で水が淀んだ所及びその横の水田等にはコウキクサが見られた(図2, D)。

② ハス田及びその周辺の用水路

鳴門市の南東部は、旧吉野川の川口に発達した沖積地で、大津町、里浦町等を中心にレンコンやサツマイモ等が栽培されていて、その総栽培面積は1000 ha以上に及んでいる。そのため、旧吉野川からは灌漑用の水路がハス田やサツマイモ畑を縫って網の目のように引かれ、冬期も水が濁ることがなく、ハス田、ため池等と共に水草にとっては格好の生息環境となっている。以前は、ウキクサやアオウキクサが多くみられたが、昭和60年頃からはミジンコウキクサ、イボウキクサが市街地に近いハス田の用水路やため池、人家横の生活雑廃水が流入する汚染の進んだ水路まで分布を広げている。今回の調査でも以前にも増して、イボウキクサやミジンコウキクサが広がり(図3, E, F)、隣接する松茂町の一部にまで見られるようになった。

ハス田ではレンコンの植え付けが終わって、3～5月頃までは、冬緑性のウキクサ科が繁殖し、水面を被うが、ハスの葉が茂るにつれて少なくなり葉陰から日光の射し込む水面で、わずかにコウキクサ、アオウキクサ、ウキクサ等が見られた。

植え付けて間もないハス田や収穫した後も水を張ってある田にはウキクサ科植物が繁殖し水面を被うが、多くの場合単一種ではなく、コウキクサ、イボウキクサ、ナンゴクアオウキクサ、ウキクサ、ミジンコウキクサ、アオウキクサ等が数種類の組み合わせで



図1 鳴門市におけるウキクサ科植物の分布. A. ウキクサ, B. アオウキクサ, C. ナンゴクアオウキクサ, D. コウキクサ, E. イボウキクサ, F. ミジンコウキクサ

混生している場合が多い。今回の調査でナンゴクアオウキクサが4調査区で確認できた(図2, C)。

ハス田に生育しているウキクサ科植物の消長は著しく、台風時等の増水や人為的な影響を受けてすぐ変動する。5月にはナンゴクアオウキクサが一面に

見られたハス田も、数週間後に再調査すると、コウキクサやイボウキクサが増えていて、ナンゴクアオウキクサは極くわずかしが含まれていないこともあった。また、イボウキクサが被っていた用水路もしばらく経って行くと、それは殆ど無くなっていて、代

わりにミジンコウキクサが被っているということもあった。

4. おわりに

徳島県植物誌(阿部、1990) にヒメウキクサが県内から記録されているが、今回の調査では確認できなかった。また、チリウキクサ(木下) が記述されているがこれはイボウキクサの一形を筆者(木下) が見誤ったものでそれが訂正されずにそのまま記録されたものであり、ここに改めて訂正しおわび申し上げる次第である。

なお、コウキクサの中には葉状体が紫色を帯びるものがあり、ムラサキコウキクサと思われるものも含まれていたが、今回の調査では区別せず、全てをコウキクサとした。

また、分布図作成に用いた標本は、一部を徳島県教育研修センターの標本庫に残してあとは全て徳島県立博物館の標本庫に納めた。

「謝辞」

この度の調査報告は、神戸大学の角野康郎先生に市内の主なウキクサ科植物の同定をお願いし、再検討した結果に基づいたものである。ご多忙中にもかかわらず、快く同定していただいた上に、温かいご助言を賜った先生に厚くお礼を申し上げます。

参考文献

- 角野康郎・久米 修, 1992. 香川県の冬緑性アオウキクサ属植物. 水草研究会会報 (47): 11-14.
堀川恵理子・福原晴夫, 1991. 新潟県におけるアオウキクサとコウキクサの分布と生態. 水草研究会会報 (45): 1-9.
角野康郎, 1990. 日本にもコウキクサは分布する. 水草

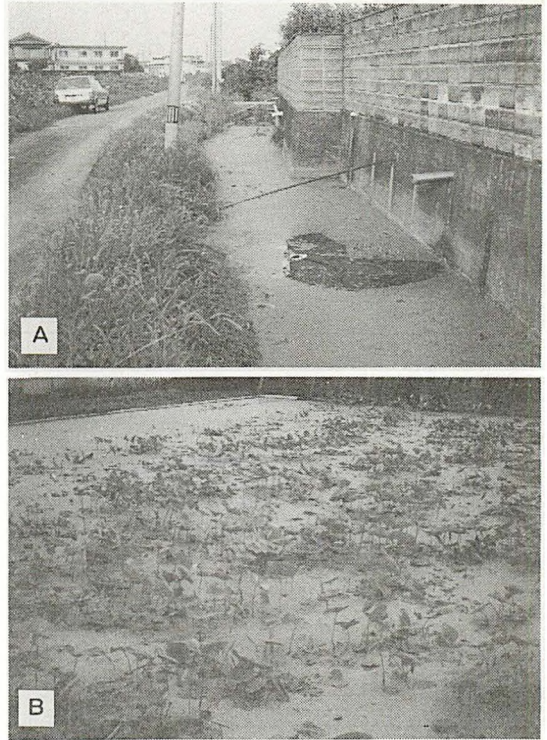


図2 ウキクサ科植物の繁殖地の様子。
A. イボウキクサ(鳴門市大津町段関),
B. ナンゴクアオウキクサ(鳴門市大津町大幸),

研究会会報 (42): 20-21.

- 角野康郎, 1992. 兵庫県東播磨地方の冬緑性アオウキクサ属植物. 水草研究会会報 (46): 11-14.
角野康郎・渡辺恭子, 1992. 兵庫県のナンゴクアオウキクサ. 植物研究雑誌 Vol. 67: 244-245.
大滝末男・石戸 忠, 1980. 日本水生植物図鑑. 北隆館.